

夢の自転車と第二の足

郡山第一中学校 二年 中山 晶絵

私の母方の祖父母は、新潟で二人で住んで  
いる。先日、母が実家を訪れると、祖母が、  
母に言ったそうだった。

「お父さんも足が弱ったのか、歩くより自転  
車の方が楽だと言っている。事故が心配」

祖父は、車の運転もするが、城下町の名残  
りのある市街地に住んでいるため、いろいろ  
な用事をすませるためには、自転車の方が便

利だからと思っていた。しかし、祖母から見  
ると、たまに来た孫とお寿ソに行くなど歩い  
た方が良い時でも、ひとり自転車で乗って  
先に行っているからと言うのだそうだった。

そういえば、私のいとこの祖父も八十才を  
過ぎても自転車に乗っていた。タウン誌の同  
人として元々なるまで活躍していた。ベレー

帽で自転車に乗っている姿は有名だったか、  
家族からは、危険だからと反対されていた。

中学生の私にとって、自転車は、小学生か

ら高救生の移動手段というイメージが強い。兄を見ても、車の免許を取ると、近い所でも車で行っている。しかし、お年寄りにとって、も、自転車は大切な移動手段であるという。ことに気がついた。また、一月下旬の新聞の投稿欄に「自分を取り戻した自転車での散策」というタイトルの話が載っていた。病気で長時間の歩行が困難になった人が、ハイキングなど野山を歩く楽しみを失ったが、医師の助言で自転車に乗ってみたところ、かなり遠くまで散策できるようになったということだ。時には、自転車を止めて、近くを歩き、石仏など地域の古い文化の発見に喜びを見出し、かなりの充実感を味わっているという。私も病気になるかもしれない。そして、老人になる。歩くことが困難になっても、自分の力で、好きな所に移動して、活動したい。その願いは、万人に共通のものだと思う。そこで、私にとっての夢の自転車は、病気の人やお年寄り、多少体の不自由な人でも、

安全に楽しく乗ることが出来る自転車である。  
 脚力の弱い人のためには、電動アシスト自  
 転車がある。変速ギアつきのももある。軽  
 量のもの、駐輪時の転倒防止機能つきのもの  
 もある。さらに欲しい機能は、老化などによ  
 るバランス感覚や敏捷性の衰えを補ってくれ  
 るものである。センサーなどによって、傾き  
 を補正したり、異常接近時に自動的に止まら  
 たり、安全な方向へ誘導してくれる自転車が  
 あったら、お年寄りも、家族も安心だと思っ  
 たらいい。

今年で七十七才になる祖父も、みと数年で  
 自動車運転免許証を返納することになると思  
 う。そうなれば、ますます、自転車が大切な  
 移動手段になるだろう。いとこの祖父の葬儀  
 では、次のような声がかれたという。  
 「棺に自転車入れてやりたかったね」。  
 「今ごろ、乗って天国に向かっているよ」。  
 第二の足になる自転車が、私にとっての夢  
 の自転車だ。いくつになっても、健康で、自  
 立した生活ができることが幸福につながる。